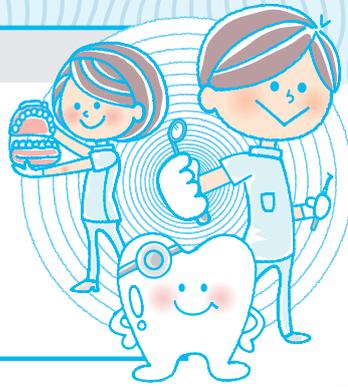


歯科医療 最前線

vol.5

〔 歯と全身との関わり 編 〕



歯周病を治せば、メタボも良くなる!?

口は健康の入り口、 元気の土台。

よく耳にする「メタボ」、メタボリックシンドロームは肥満、高血糖、高血圧などの危険因子が重なった状態で、脳卒中や糖尿病を発症する確率をぐんと高めます。予防の基本はバランスの取れた適切な食生活ですが、それを入り口で支える歯の健康も欠かせません。自分の歯でしっかり噛んで、ゆっくり食事をするのが肥満の予防につながることも明らかになっています。

いくつになっても自分の歯で食事をするためには、毎日の歯磨き、バランスのよい食生活に加え、予防医学の観点からも歯科医師のアドバイスや定期健診が欠かせません。また、子どもの頃からの健康づくりにおいて、「食べ方」を育てる視点で食育を支えていくことも今後ますます歯科医師の大切な役割になっていくでしょう。

歯周病と糖尿病に 深い関係が!?

口の中の状態は全身の健康とも深くつながっています。生活習慣病の一つ、歯周病は歯の周囲を支えている組織が壊れていく病気で、程度の違いはありますが、成人の8割がかかっているといわれます。近年、この歯周病と糖尿病の関連性が解明されてきました。糖尿病の人は同時に歯周病にもかかっている率が高く、残っている歯の数も少ないことがわかっています。しかも、歯周病が進むとインスリンの機能が抑制されること、歯を失うことであまり噛まなくて済む食品に偏りがちなことで、ますます血糖値を上げるという悪循環をもたらす危険があります。

糖尿病の人の歯周病を治療すると血糖コントロールが改善したという報告もあり、ここには双方向の関連性があるのでは

ないかと注目されています。そこで、医師も協力して予防・治療の向上を図ろうと、日本糖尿病協会では歯科医師登録医制度をスタートさせました。現在6000人以上の歯科医師が登録しています。

歯の健康が
全身の健康にも
関わり合ってるんだね



TOPICS

歯周病と糖尿病の関連究明を 遺伝子レベルで進めています。

歯周治療学分野の古市研究チームでは、本学の辻大病院長(糖尿病専門医)らと共同で歯周病と糖尿病の関連を遺伝子レベルで明らかにする研究に取り組んでいます。これまで歯周病あるいは糖尿病に関わる遺伝子の研究は別々に行われ、それぞれにいくつか候補が挙がっています。私たちはそれらを突き合わせ、両疾患共通の遺伝子を見つけようとしています。すでに歯周病と糖尿病の両方にかかっている患者さんの協力で100人以上のサンプル(血液)を採取、これから解析を始めます。ぜひ両疾患共通の遺伝子を見つけて、患者数の多い2疾患の同時治療に貢献したいと考えています。



歯学部
古市 保志 教授

日本歯周病学会専門医・指導医、歯学博士。本学附属歯科内科クリニック院長。「歯周外科手術におけるバイオ・リジェネレーション法」実践者でもあり、再生医療、ゲノム解析から歯周病に挑む歯周治療学分野のトップランナー。



ゲノムワイドというゲノム全域にわたって解析し、絞り込んでいく手法を採用しています。